

青丘文庫研究会 月報

No.300
2022年5月1日

青丘文庫研究会 〒657-0051 神戸市灘区八幡町 4-9-22 (公財)神戸学生青年センター内
 TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019 <https://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 (※神戸学生青年センターは2021年5月に上記に移転しました)
 ①在日朝鮮人運動史研究会関西西部会 (代表・飛田雄一)
 ②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>
 年間購読料3000円。在日朝鮮人史研究関西西部会会費、5000円/年 (雑誌3冊を入手できます。)

2022年4月10日 在日朝鮮人運動史研究会関西西部会
「大阪空襲と朝鮮人そして強制連行」を発刊して

塚崎昌之

大阪では、1944年12月9日を皮切りに1945年8月14日まで、8回の大空襲を含めて約50回の空襲があり、1万5千人以上の方が亡くなった。大阪の戦災者数は102万5036人、そのうち朝鮮人は8万3900人とされている。朝鮮人が占める率は8.2%である。戦災者の比率と空襲犠牲者の比率が同じと考え、大阪全体の空襲犠牲者を1万5千人として単純計算すると、朝鮮人の空襲犠牲者は1230人ということになる。また、大阪の朝鮮人戦災者は全国の朝鮮人戦災者の35.1%を占める。

ピースおおさか「刻(とき)の庭」の大阪空襲犠牲者の名前を記すモニュメント銅板など、現在残されている名簿から、確実に朝鮮人犠牲者として名前が分かるのは、166名(内1名は姓のみ、1名は誰その母)だけである。空襲犠牲者1230人とする、名前判明率は13.5%でしかない。ちなみに「刻の庭」には、1万5千人の内、約9千200人の名前が記されており、その約60%と比べると、いかに朝鮮人犠牲者の名前判明率が低いかがわかる。その名前というのも、ほとんどが「創氏改名」の名前であり、本名と思われるのは22名程度である。朝鮮人空襲犠牲者の僅かに2%弱しか本名で追悼できないのである。

さらにわからないのが、朝鮮人強制連行者の空襲犠牲者数である。1944年末の大阪での強制連行者数は1万3146人であり、これも単純計算すると、在阪朝鮮人人口の内、強制連行者の占める割合は5.7%となり、強制連行空襲犠牲者は約70人ということになる。しかし、強制連行者の労働現場は空襲の激しかったところが多く、100人以上とも推測できる。そのうち、空襲で亡くなった強制連行者は2名がわかるのみである。「刻の庭」には、なぜかそのうちの一名「柳村大根」しか名前が記されていない。

ちなみに、大阪への中国人強制連行者は1945年の空襲時には約830人いたと考えられるが、死者76人の名前は全員判明しており、空襲犠牲者8名の名前も「刻の庭」に記されている。敵国だった中国人強制連行者の死亡率は、当時は「日本臣民」とされた朝鮮人強制連行者と比べると格段に高い。しかし、死者の名前は戦勝国となった中国には伝えられた。朝鮮人については調査も行われずに、韓国政府や遺族に伝えられることもなかった。日本政府は植民地支配責任を全く果たさなかったのである。

第一次大阪大空襲の日にあたる本年3月13日に行われた大阪空襲77年朝鮮人犠牲者追悼集会に合わせて、筆者が中心となって『大阪空襲と朝鮮人そして強制連行』を発刊した。ただ、朝鮮人・強制連行者の被害を追うだけではなく、なぜ多くの被害者が出て、戦後も放置し続けられたのかも考えられるようにした。空襲の種類や歴史(特に日本が主導した無差別空襲)、日本の空襲防衛体制に朝鮮人が如何に関わらせられたかなどを含み、見開き2頁の一節に文章だけでなく、写真、当時の新聞記事・資料なども入れた。空襲入門書として読みやすくするとともに、学問的説得力を持たず構成にした。また、普段の会話にも使えるような小ネタ、例えば、現在の大阪の観光拠点であるUSJ-大阪城ホール-海遊館の当時のつながりなども多く入れるようにした。ぜひ、学校の教育現場で教材に使うと欲しいと考えている。研究会の報告では、筆者が高校教員時代になぜ身近な加害の掘り起こしを行い、教材として使うようになったのかを含めて報告した。

本冊子は、本文24節、強制連行者の就労先、朝鮮人空襲体験者14名の証言などを含め、



カラー印刷 80 頁からなり、頒価は 1000 円となっている。購入希望の方、またお知り合いにお薦めいただける場合下記の URL、もしくは QR から送料込み 1000 円で申込・購入できる。

bit.ly/3HycLnN 若しくは <https://form.os7.biz/f/2d680ff4/>

「映画人・朱仁奎について」堀内稔（朝鮮近現代史研究会 2022.4.10）

朝鮮映画の傑作『アリラン』は知っていても、この映画に出演していた朱仁奎を知っている人はあまりいないと思われる。私も朝鮮の共産主義運動を研究していた時代、朝鮮室素の労働運動をしていた朱仁奎の名前は知っていたが、俳優としての朱仁奎はほとんど知らなかった。『韓国映画を作った男たち』（安鍾和著・長沢雅春訳、青丘社、2013 年）を読んで初めて俳優としての朱仁奎のことを知り、労働運動の朱仁奎と重ね合わせて彼の全体像を知りたいと思った。朝鮮映画の歴史については全く無知であったので、にわか勉強をしてなんとかまとめあげた。

朱仁奎は咸鏡南道出身で、植民地時代から多くの映画に出演し、俳優として活躍した。解放後も北に渡り平壤の国立映画撮影所の初代所長をつとめ、映画製作を指導した。1956 年宗派分子と批判され、その調査中に拷問に耐えきれず自殺した。以上が簡単な略歴であるが、時代別にもう少し詳しくみてみよう。

朱仁奎（1901-1956）が俳優を志した動機についてはわからないが、彼は 1924 年の研究生の時代を経て 1925 年の『沈清伝』の初出演以来、『アリラン』、『風雲児』、『樂園を求める群れ』など 1927 年までに 10 本の映画に出演した。1928、29 年には出演した映画がなく、この時期に労働運動に身を投じたものと推測される。1930 年代は『盗賊野郎』（1930）、および自ら設立したキランドゥン映画社による『哀れな人々 前編』（1932）の 2 本だけであった。彼の演技には「悪役の第一人者」、「迫力ある演技」、「ダイナミックな線と特異な性格」、「貫禄ある演技」などといった評価があたえられている。

労働運動時代の朱仁奎は、朝鮮室素で働きながらストライキを指導したり、1931 年 11 月にはウラジオストックに赴き、太労十月書信を持ち帰るなどの活動を行った。しかし、1932 年のメーデーを前後して興南、咸興などで活動していたグループが根こそぎ検挙される、いわゆる第二次太平洋労働組合事件で朱仁奎も検挙される。1934 年咸興地方法院で懲役 3 年の判決受け服役する。

出獄後朱仁奎は『福地萬里』（高麗映画協会製作、1941 年封切り）に出演するが、この映画は製作期間 3 年、登場人物 3 千名、製作費 10 万円の「空前大豪華版朝鮮映画」といわれた。この『福地萬里』の撮影メンバーのうち朱仁奎ら数名が中心となって、1939 年 2 月劇団高協を結成した。最も進取的で発展的な演劇を目的とし、同年 3 月の元山での初公演を皮切りに、朝鮮の各地や満州を巡回し『春香伝』などを公演した。ソウルでは京城府民館を使用した。この間の『福地萬里』の撮影（1939 年末終了）は、公演の合間をぬって行われた。1940 年 12 月高協を含む劇団があつまって朝鮮演劇協会が結成され、朝鮮の演劇は総督府の管理下の置かれることになる。

劇団高協のスローガンは「健全な演劇は健全な生活から」であったが、これにもとづいて高協村（高揚郡恩平面）がつくられ山羊の飼育が行われた。高協村はソウルの資産家の援助を受けたもので、高協村での集団生活は「われわれのこれまでの散漫で不健康だった生活を一扫した」という。

解放後朱仁奎は咸鏡道検察部の部長となり、友人であった磯谷季次と連絡をとりあって日本人及び避難民の救済問題に取り組んだ。

1947 年 2 月、北朝鮮臨時人民委員会で国立映画撮影所（平壤郊外の南兄弟面上堂洞）の創立が決定され、初代所長に朱仁奎が就任した。撮影に必要な機材は、朱仁奎所長が商業局貿易部長と協議するなどして輸入されたという。1948 年国立映画撮影所の最初の長編劇映画『わが故郷』が、朱仁奎指導で製作された。

朝鮮戦争休戦後の 1952 年 12 月、朝鮮民主主義人民共和国の副首相兼外相であった朴憲永が「アメリカ帝国主義のスパイ」の名目で粛清された後、解放後に韓国からきた多くの映画・演芸人、文学者たちが次々一線から姿を消していった。朱仁奎も宗派分子として調査され、拷問に耐えきれず 1959 年 9 月に自殺したと伝えられる。

「在日朝鮮人史運動史研究会」51号

2021年10月、A5、130頁、発行：緑蔭書房、2400円+税

※月報読者には、送料とも特価2160円で販売します。事前に、<00970-0-68837 青丘文庫月報>に送金をお願いします。

●目次●

「内鮮協定」と戦時期の渡航管理政策について——一九三〇年代末を中心に 福井 譲

大阪空襲と朝鮮人一戦中、そして戦後 塚崎昌之

戦後電源開発と朝鮮人労働者—国鉄士幌線工事を事例に 上田文夫

日本人家庭に生まれ（韓国人）として生きた

山梨県在住女性のライフストーリー 鮎渾 譲

《資料紹介》

鵬野義雄「内地行朝鮮人労働者の概況」 樋口雄一

<青丘文庫研究会の記録> 月報が2021年10月以来の発行となってしまいました。この間、メールニュースを発行していました。メールニュース希望の方は、飛田雄一 hida@ksyc.jp までメールをお願いします。以下、のちのちの青丘文庫研究会歴史のために記録を掲載しておきます。

<2021年>

- ・ 11月14日（日）、在日<大阪 KCC 会館、近現代史（休み）（1）朴壽南『日韓 100 人が語る歴史の証言映像』ダイジェスト版（軍艦島の映像を中心に）、朴寿南さん・朴麻衣さんリモートでのトーク／（2）高仁鳳『幻のフィルムでつづる建国の60年』30分、高仁鳳さんの奥さん林芳子さんの挨拶、建国学園の関係者ほか／（3）崔寅奎監督「家なき天使」1941年1の上映と水野直樹さんの解説
- ・ 12月12日（日）、在日（広瀬貞三「戦前の吉野川水系祖谷川の発電所工事と朝鮮人労働者」、近現代史（堀内稔「日本統治下朝鮮の雲山鉦山の中国人」）

<2022年>

- ・ 1月9日（日）、在日午後3時半～（藤川正夫「植民地出身公務員の処遇—「サ」条約、及び「高辻回答」、近現代史午後2時～（水野直樹「1945年8月朝鮮における政治犯の釈放」会場、青丘文庫
- ・ 2月13日（日）、在日（午後2時～ZOOM／西村芳将（鳥取地域史研究会会員、鳥取県職員）、「英連邦空軍による朝鮮人「密航」監視」、近現代史（午後3時半～）／上野都「朴八陽『麗水詩抄』について・一本のペンと多彩な面差し」ZOOM 開催
- ・ 3月13日（日）、映画会、大阪 KCC、※中止
- ・ 4月10日（日）、在日（塚崎昌之「『大阪空襲と朝鮮人、そして強制連行』を発刊して」、近現代史（堀内稔「映画人・朱仁奎について」、青丘文庫

●青丘文庫研究会●2022年5月8日（日）午後2時～5時

1) 午後2時～3時半／在日朝鮮人史運動史研究会関西部会 「日帝強制動員被害者支援財団（韓国）の日本語書籍出版事業」 飛田雄一

2) 午後3時半～5時／朝鮮近現代史研究会 「〈在日史学〉研究序説」 金

※ZOOM 開催です。以下のアドレスよりお入りください。

<https://us02web.zoom.us/j/4628131887?pwd=RTFzYjhPeEtCdWNkcmlTWndCSHdkdz09>

ミーティング ID: 462 813 1887 パスコード: 4FweUj

【今後の研究会の予定】

- ・ 6月12日(日)、在日(水野直樹「民族問題研究所刊行の『在日朝鮮人団体事典』について」(仮題)、近現代史(宋恵媛「サハリン朝鮮人について、あるいは、朝鮮人米軍通訳について」(予定))
- ・ 7月10日(日)、〈プロローグ〉※参考上映「古代からの歴史に見る—日本列島と朝鮮半島」(1984/30分/16ミリ)〈第1部〉鶴橋本通り「キョンチャルアパート」(10分/撮影:高仁鳳 編集:金稔万)トーク:塚崎昌之さん15分〈第2部〉奈良「柳本飛行場跡・どんづる峯」(30分/撮影・編集:金稔万)トーク:担当未定15分〈第3部〉「ウトロ 家族の街」(2002/58分/監督:武田倫和/総指揮:原一男)トーク:斎藤正樹さん 武田倫和監督30分(以上、映画会案)
- ・ 8月はお休み
- ・ 9月11日(日)在日(未定)、近現代史(塚崎昌之「日清戦争後の被差別部落—朝鮮人起源言説の隆盛」※調整中)
- ・ 10月9日(日)在日(未定)、近現代史(未定)
- ・ 11月13日(日)在日(未定)、近現代史(未定)
- ・ 12月11日(日)在日(未定)、近現代史(未定)

【新刊書のごあんない】

- ・ 斎藤正樹『居住福祉新ブックレット3 /ウトロ・強制立ち退きとの闘い』
<https://www.toshindo-pub.com/book/91752/>
- ・ 金耿昊『積み重なる差別と貧困: 在日朝鮮人と生活保護』法政大学出版社
<https://www.h-up.com/books/isbn978-4-588-60364-8.html>
- ・ 竹内康人編著『戦時朝鮮人強制労働調査資料集 増補改訂版—連行先一覧・全国地図・死亡者名簿—』(A5版 268頁 定価2000円+税 2015年1月発行) <https://ksyc.jp/publish/takeuchi-shiryoshu201501/>
- ・ 神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会編『<資料集>アジア・太平洋戦争下の「敵国」民間人抑留—神戸の場合—』(2022.4 660円神戸学生青年センター出版部)
<https://ksyc.jp/publish/yokuryu/>

【月報の巻頭エッセイの予定】 6月号以降の原稿です。締め切りは20日です。梶居佳広、高野昭雄、李裕淑、藤川正夫、張允植、松下佳弘、三宅洋介、金早雪、高希麗、伊地知紀子、川那辺康一、廣瀬陽一、高正子、斎藤正樹、土井浩嗣、上田文夫、中川慎二、塚崎昌之、宇野田尚哉、姜健栄、佐野通夫、三宅美千代、全淑美、太田修、藤永壮、水野直樹、河かおる、本岡拓哉、梁千賀子、山根俊郎、川瀬俊治、小野容照、樋口大祐、梶居佳広、高木伸夫、長志珠絵、藤井幸之助、黒川伊織、吉川絢子、李月順、高祐二、李景珉、青野正明、呉仁濟、勝村誠、松田利彦、飛田雄一(思いつくままにリストアップしました。前倒しで原稿を書いてくださってもOKです。)

【編集後記】 ■昨年(2021年)11月以来の印刷版「月報」です。コロナのせいですが?? ■郵送の方には郵便振替用紙を同封しています。<00970-0-68837 青丘文庫月報>2022年度会費3000円をお願いします。在日朝鮮人史運動史研究会関西部会の会員はその会費5000円をお願いします。(雑誌3冊を送ります) ■韓国/東京/関西で2年に一度開催の合同研究会、次回は関西の予定ですが、コロナで延期となっています。今夏8月、ZOOMでの開催やむなし、とも考えています。またご案内いたします。
飛田雄一 hida@ksyc.jp